

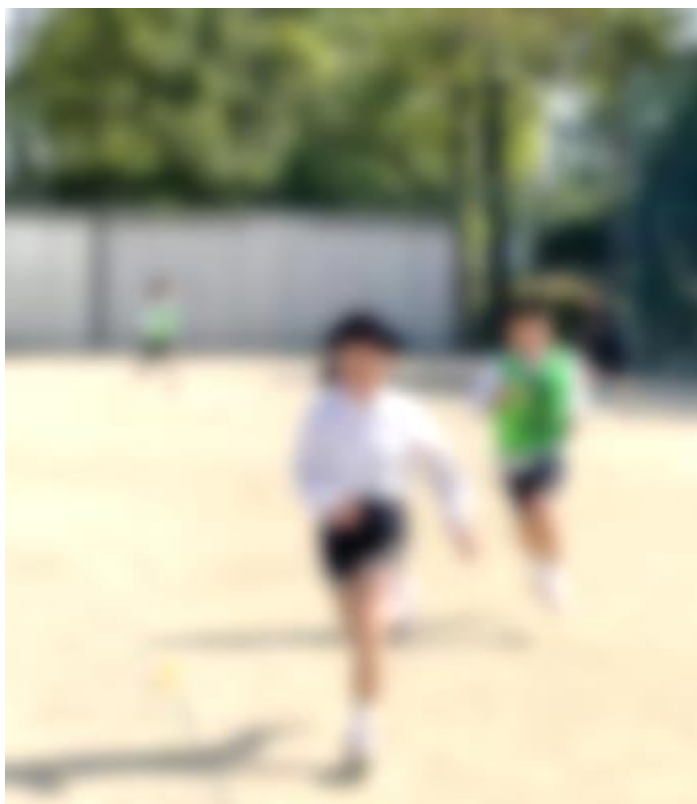


令和5年度 佐賀大学教育学部附属小学校
教育研究発表会

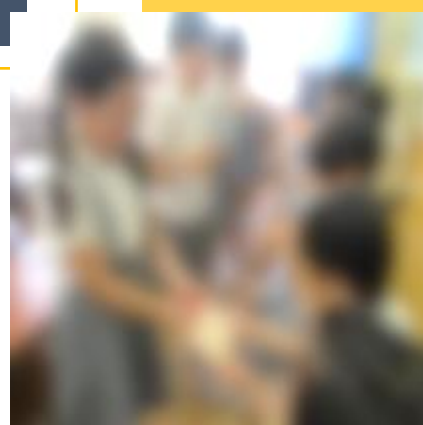
4の2レインボーワールド！！
～虹フェスで4の2も自分も成長しよう～

2023.7.24

公開授業Ⅲ 13:30～14:15
分科会② 14:30～15:40
会場 4年2組教室



**特別活動
当日資料**



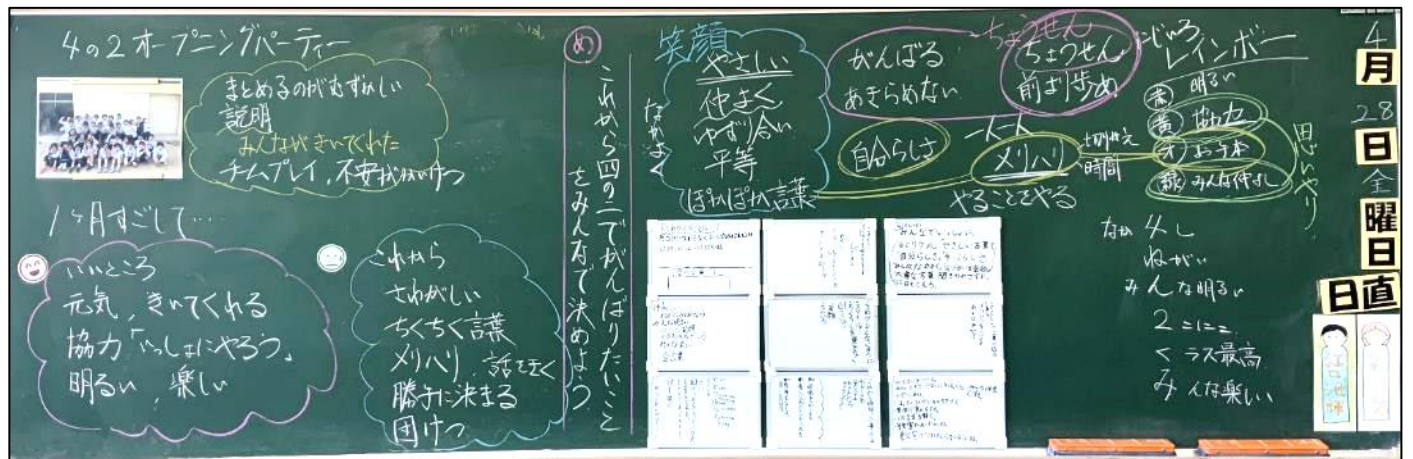
佐賀大学教育学部附属小学校
〒840-0041 佐賀市城内二丁目17-3
☎ 0952-26-1005

矢川 亮太

「4の2レインボーワールド!!」について

「4の2レインボーワールド!!」は、4年2組の学級目標である。学級目標を決める際には、年度当初すぐに行うのではなく、まずは新しい学級で、どんな友達がいるか、学級の雰囲気はどうかを肌で感じた上で考えることができるよう、1ヶ月ほど期間をおいて決めるようにしている。

4月に学級開きをして、約1ヶ月を過ごした4月下旬、「4の2オープニングパーティー」を行った。このパーティーのねらいは2つある。1つは学級活動の意義や進め方を確認すること。もう1つは学級の実態を浮き彫りにし、教師と子供たちで共有することである。2つ目は学級目標にも大きく関わってくる。学級みんなで話し合っ決めて実践する中で、学級のよさや課題を見だし、1年間どんなことをがんばって、どんな4年2組にしたいかを考える授業を行った。



まずは、オープニングパーティーについて振り返りつつ、1ヶ月を過ごしてみたの4の2のいいところとこれからよくしていきたいところを出し合った。いいところとしては、「元気」「明るい」といった意見だけでなく「自分の話を聞いてくれる」「協力して遊んでいる」「一緒にやろうと声をかけてくれる」など具体的な意見も出てきた。これからよくしていきたいところとしては、「さわがしい」「メリハリができていない」「あおったりちくちく言葉を言ったりしている」「みんなの話を聞かないで勝手に話を進めることがある」など、1ヶ月の間で各々が感じたことを出し合い、それらを踏まえた上で、「これから4の2としてがんばりたいことをみんなで決めよう」というめあてを提示した。まずは班で話し合い、ホワイトボードにまとめるようにする。それぞれの班で出た意見を全体で交流し、似ている意見を集約しながらいくつかのキーワードに絞り込んでいった。様々な意見が出る中で、「4の2にはいろんな個性があるからレインボー（虹色）という言葉を入れたい」という意見に食いつく子供たち。「7色の虹にちなんで7つのキーワードを選んではどうか」という教師の提案にのる形で、がんばりたいキーワードを7つ選ぶことに決まったところで授業は終了。後日、改めてキーワードを7つ選び、以下のような学級目標に決まった。「レインボー（虹色）」は個性、多様性の象徴。「4の2」らしさを大事にしながら、七色のキーワードを大切に作る「学級（ワールド）」をつくっていきたいという願いが込められている。35人の個性に磨きをかけて、それぞれを認め合いながらよさが輝く学級になるよう、力を合わせていこうと話した。



学級活動年間計画

学級目標が決まり、学級活動の意義と進め方を確認した後、学級みんなでやりたいことを出し合い、学級活動の年間計画を子供たちと一緒に考えた。この際、それぞれの活動は、ただ楽しむだけのものではなく、実践を通して、学級や自分を成長させるために行うということを確認した。

夏休みまでの4ヶ月間は、自分たちの力で活動していく楽しさを味わわせつつ、課題を浮き彫りにしながら、学級としてのルールや人間関係の基盤をつくることに重きを置く。夏休みが明けてから冬休みまでは、基盤をもとに学級の力を高めていく時期であると捉えている。目的（めあて）を意識したり新しいことに挑戦したりしながら、学級をまとめることを意識して指導していく。年が明ける頃には、学級の文化が確立され、担任の手を離れて自治的に活動できるようにしておきたい。次学年を意識付けつつ、様々な活動を子供たちに任せ見守ることを大切にしていく。

月	活動の重点	議題名（予定）
4月	仲間づくりの時期 集団の一員としての自覚をもち、 自分たちの力で活動する。	4の2 オープニングパーティーをしよう
5月		虹スポでもり上がろう
6月		誕生日の友達をお祝いしよう①
7月		虹フェスで4の2も自分も成長しよう
9月	学級集団のまとまりが高まる時期 めあてを確かめながら、学級生活を 充実させようと活動する。	ようこそ！教生先生 & ありがとう！教生先生
10月		ハロウィンパーティーに〇〇を招待しよう
11月		誕生日の友達をお祝いしよう②
12月		クリスマスパーティーで1年をふり返ろう
1月	学級の連帯感が生まれる時期 学級集団の力を発揮し、活動の充実 感を確かめ合いながら活動する。	お正月パーティーで1年のスタートをきろう
2月		誕生日の友達をお祝いしよう③
3月		4の2 ファイナルパーティーで5年生に向かおう

これまでの実践

第1回 4の2 オープニングパーティーをしよう

4月下旬。教師からの提案で実施。学級活動は、自分たちがやりたいことを自分たちで決めて実践していく時間であることを伝え、学級会の進め方などを確認しながら話し合い活動を行った。決まったのは「ドッジボール」と「おにごっこ」。初めての実践ではあるが、教師が前面に出て指示を出すのではなく、実行委員が中心となって自分たちで進行できるようにサポートした。この実践を通して見いだした学級のよさや課題を学級目標づくりへとつなげていった。

第2回 虹スポでもり上がろう

学級目標が決まり、2度目の実践。みんなで立てた年間計画に基づき、スポーツ大会をすることになった。学級目標にちなんで「虹スポ」と銘打ち、話し合い活動で「サッカー」「タグラグビー」をすることに決まった。時間進行、チーム決め、ルール説明などそれぞれの係でそれなりに準備はしていたものの、実践には納得いかなかった様子。実践後のアンケートでは「楽しかった」と「楽しくなかった」が半々の結果に。その原因を探り、次は楽しくしようと意欲を高めるようにした。

第3回 R(レインボー)B(バースデー)P(パーティー)No.1 (4~7月)でお祝いしよう

4月から7月までの誕生日の友達をお祝いするパーティー。前回の虹スポの反省を生かして、みんなが楽しめるパーティーにしたいという思いを実行委員が語っていた。実践は、前回とは対照的に大盛り上がり。祝う側も祝われる側も楽しんで8割が「楽しかった」と回答していた。実践を通じた課題を見つけて次につなげていくことで、学級が成長していくことを実感していた様子。楽しみながらも計画的に会を進行していくことを次の課題とし、夏祭りへの思いを高めていた。

「学びの宝箱」について

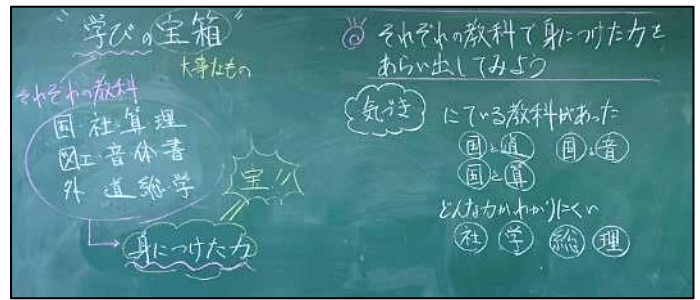
4月の実践後、各教科等の学びを可視化するための手立てである「学びの宝箱」を子供たちと一緒に作る時間を設けた。

まず全体で、それぞれの教科等で身に付けた力は、学級活動の実践で生かすことができる宝であるという話をし、「学びの宝箱」の定義について共有した。

次に、各教科等でどのような学習をして、どのようなことができるようになったかを個人で考える際に、MicrosoftのFormsを活用し、タブレット端末からそれぞれの教科で身に付いたと思う力を考えて入力するようにした。教科書を開いたり友達と相談したりしながら、普段何気なく受けている授業で、どんな力が身に付いたのかどんなことができるようになったのか思いを馳せる子供たちの姿が見られた。

全体で交流する場面では、Formsで回答された意見を集約するために、テキストマイニングの結果を提示した。ここで出てきた言葉、つまりたくさんの方の回答に含まれていた言葉をもとに、それぞれの教科等で身に付けてきたであろう学びを集約していった。

ここで共有した学びの宝は教室に掲示し、随時更新するようにしている。また、個人でも「学びの宝箱」を持ち、各教科等の授業後や実践後に書き込むよう声をかけ、実践とのつながりを考える際の手がかりにしている。

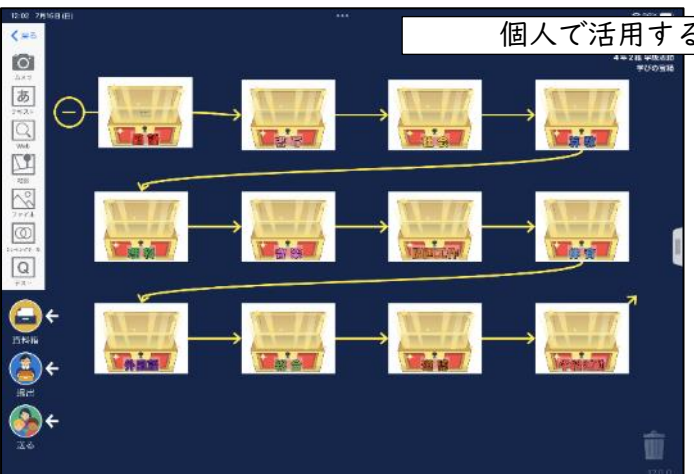
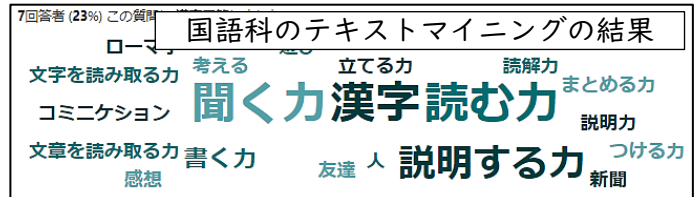


4の2 学びの宝箱

Formsによる回答フォーム

いろいろな教科で身につけた力を、学級活動の実践で生かすために、それぞれの教科でどんな力がついたのかをあらわしてみましょう

- 自分の名前
- 国語
- 書写



タブレット端末（ロイロノート）【今年度の実践】

- ◎文字の追加、削除、移動、大きさや色の変更など、直感的に操作でき、自由度が高く整理しやすい。
- ◎「提出箱」に提出することで、学級全員のノートを参照することができ、全体での共有がしやすい。
- △タブレットを立ち上げる必要があるため、即時的に書き込むことができない。



ファイルに貼った紙（ワークシート）【昨年度の実践】

- ◎ファイルに貼ってあるので、思いついたときにすぐ書き込むことができる。
- ◎タブレット操作に慣れていない子どもでも簡単に活用することができ、機械トラブルもない。
- △書くスペースが限られ、文字を移動したりレイアウトを変えたりするなどの編集が難しい。

ポートフォリオについて

一連の実践の中で、子供たちが自分自身を見つめながら活動し、自身の成長を実感できるようにするために、議題全体を通した1枚ポートフォリオを活用している。「議題の決定」「話し合い活動」「準備～実践」「振り返り活動」の学習過程において、自分の頑張りたいことや活動の中で生じた気付きや思いなどを記録していくようにする。活動の過程を1枚にまとめることで、自分自身の取り組み方や変容について俯瞰して見ることができるようにし、「振り返り活動」において自分の成長について考えやすくすることをねらっている。「楽しかった!」「うまくいかなかった…」で終わらず、その要因を探り、活動を通してどんな成長をすることができたのかを明らかにしていく。

① 議題の決定

今回の議題のねらいやイメージを共有した上で、どんな学びの宝が使えるか考える。全体で出し合った後、全体を通して「どんな自分になりたいか」「どんな力を身に付けたいか」を考えるようにし、目的意識をもって実践に向かえるようにする。

② 話し合い活動(前)

議題の決定から話し合い活動までの間に、柱に対する自分の考えを記入しておき、スムーズに話し合い活動に臨めるようにする。

⑤ 振り返り活動(1)

これまでの実践の中で、「いいな、すごいな」と思った友達や学級の姿、「自分が頑張ったことや活用した学びの宝」を問い、自分の成長の要因について考える手がかりとする。友達と交流し、個人の活動や友達や学級のよさを認め合う。

The collage shows various handwritten notes and drawings:

- 1:** A drawing of a classroom with a teacher and students. Text: "今回の実践を通して、こんな学びを生かしたい! こんなことができるようになりたい! こんな自分になりたい!"
- 2:** A drawing of a person. Text: "自分の考えとその理由", "フル活用", "いよとりゲーム", "はくたんいとり".
- 3:** A drawing of a person. Text: "決まったこと", "けんけんあつていつとていつか", "今更だわい人はスラムダンク", "ポイントをとる".
- 4:** A drawing of a person. Text: "がんばったこと・学んだこと", "困ったこと・むずかしかったこと", "時間 自分がかたがたかかったけど、じょううを助けてくれた", "実践で意外とみんながテキパキ動いてくれた", "スムーズに".
- 5:** A drawing of a person. Text: "自分ががんばったこと", "活用した学びの宝", "直死力をか", "回復力", "国語の力をか", "朝欠を力".
- 6:** A drawing of a person. Text: "今回の実践を通した、自分の成長", "おもしろいから、時間について話し合えるようになった", "これからの自分", "あつと声かけなどをした".

③ 話し合い活動(後)

話し合い活動における振り返りと、実践に向けた意気込みを記入する。自分の主張と違う意見に決まったときに、何を思い、どう実践に向かっていくかを見取り、声かけを行う。

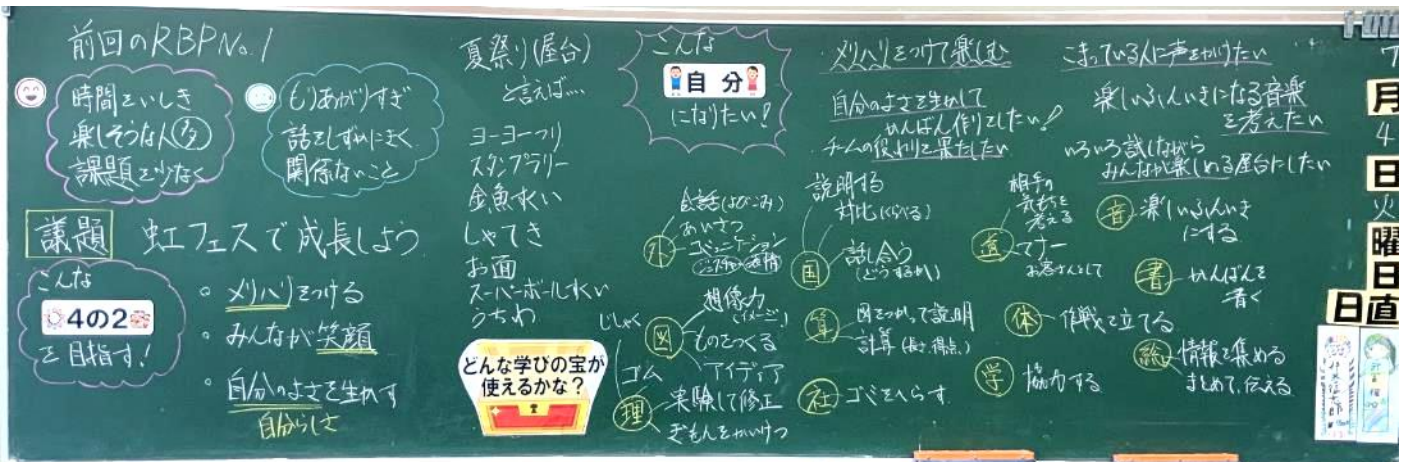
④ 準備～実践

準備をしている時間にこそ試行錯誤が生まれる。どんな思いをもって活動したのか、課題をどのように解決したのかを忘れないうちに記録するように促す。実践が終わった後にも、記録する時間を設け、振り返り活動につなげるようにする。

⑥ 振り返り活動(2)

全体での交流を経て、自分はどんな成長をしたのか、身に付いた力、高まった力についてまとめる。それを踏まえ、これからはどうしていきたいかを考え、学習や次の実践へとつなげるようにする。

本時に至るまで (第1時 議題の決定)



授業の流れ

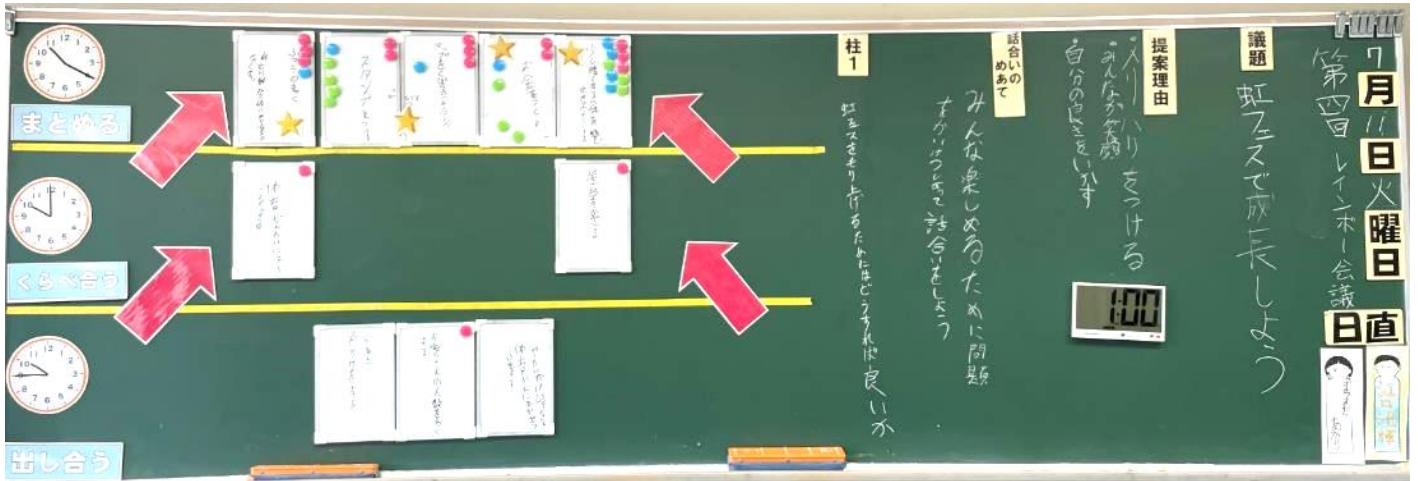
学習活動	教師の働きかけ
1 前回の実践における成果と課題を確認し、今回の議題を通して、どんな学級の姿を目指していくのかを共有する。(10分)	1-(1) これまでの学級の成長と課題を振り返り、本議題の意義へとつなげていく。 1-(2) 今回の議題を通してどんな成長をしたいかという実行委員の思いを語る場を設け、全体で意見を交流しながら目指したい学級の姿を明確にする。
2 各教科等の学びがどのように生かせるか考える。(20分)	2-(1) 夏祭りについて知っている知識を出し合う場を設けることで、各教科等との関連付けを図りやすくする。 2-(2) 「学びの宝箱」の中身を確認し、どのような学びが今回の議題で使えそうか問うことで、各教科等と今回の実践をつなげることを意識付ける。 2-(3) 全体で意見を共有し、各教科等の学びを生かすことができる本議題を価値付ける。
3 本議題を通して、どんな力を発揮して、どんな成長をしたいか、個人で考える。(10分)	3-(1) 学級として目指す姿、各教科等の学びとの関連という視点から、なりたい自分を思い描くことができるようにする。 3-(2) これまでの実践について記録した自身のポートフォリオを見返すよう声をかけることで、現在に至るまでの自分の変容を踏まえて、今回更に成長したいことについて考えることができるようにする。 3-(3) 近くの児童との交流を促したり、数名の児童が全体で発表する場を設けたりして、互いの目標を認め合い、みんなで励まし合いながら学級全体で成長を目指していくという雰囲気づくりに努める。
4 決まっていることを確認し、話し合い活動への見通しをもつ。(5分)	4-(1) 日時、場所、話し合うこと(柱)を確認し、次時の話し合い活動に向けて、自分の意見を考えておくことを伝える。 4-(2) 本議題を通して、学級と自分が成長できることを再度確認し、話し合い活動及び実践活動への意欲を高める。

まず、前議題の成長と課題について振り返った後、本議題ではどんな学級の姿を目指すのか、実行委員に語ってもらった。「メリハリをつける」「みんなが笑顔」「自分のよさを生かす」をみんなで頑張っていくことを共有し、これらは学級目標にもつながるということを確認した。

夏祭りについて、具体的なお店のイメージを出し合ったことで、射的屋さんなら理科のゴムの性質、お面なら図画工作科といったように「学びの宝箱」との関連もスムーズに行うことができた。

目指す自分の姿を考える際には、「メリハリをつけて楽しむ」など目指す学級の姿に関連したものや「楽しい雰囲気になる音楽を考えたい」など「学びの宝箱」に関連したものが挙げられた。また、前議題での友達の姿から「自分も困っている人に声をかけたい」と述べる子供の姿も見られた。

本時に至るまで（第2時 話し合い活動）



授業の流れ

学習活動	教師の働きかけ
1 本時の議題や提案理由、話し合いのめあて、決まっていること、柱の確認をする。 (5分)	1-(1) 実行委員の思いを語り、目指す学級の姿を明確にするとともに、意欲を高める。 1-(2) イベントを行う意義や提案理由に基づいた視点を根拠に意見を出し合うよう伝える。
2 柱に沿って話し合う。 (35分) 柱1：虹フェスを盛り上げるために、どんな工夫をするのか	2-(1) どのような意見が集まっているかを可視化させるため、賛成、問題、改善策で色分けされたマグネットを用いる。 2-(2) ピラミッドチャートを用い、話し合いの流れを構造化することで、論点を絞りながら話し合いが深まるようにする。 2-(3) 学級全体の話し合いとするため、発表していない児童に発言を求めたり、近くの人と交流する時間を設けたりするよう司会者に伝える。 2-(4) 意見がまとまらない場合は、提案者である実行委員に意見を求める。説得力があった意見をもとに、みんなが納得できる案が提案できるよう実行委員に助言する。
3 本時の振り返りをする。 (5分)	3-(1) 話し合いのよかった点について振り返り、価値付けることで、今後の話し合い活動につなげる。 3-(2) 学級のために、話し合いに向けて準備を進めた司会グループや実行委員、建設的な意見を出した児童を称賛し、本時の話し合いの意義について話すことで、活動への意欲を高める。

話し合い活動では、ピラミッドチャートを用いながら、様々な意見を焦点化しながら合意形成に向かうようにしている。また、司会グループ、フローアに加えて、みんなの意見をまとめる役割を担う実行委員を中心に据えることで、立場や役割を明確にし、合意形成に向かいやすくしている。

「出し合う」段階では、フローアから出た意見をホワイトボードに書き、下段に並べる。ある程度意見が出たところで、賛成理由を中心にそれぞれの意見のよさを出し合い、実行委員の判断で半分程度の意見を中段に上げるようにする。中段が「比べ合う」段階。いくつか絞られた意見に対して、問題点や心配事を出したりその改善策を提案したりしながらそれぞれの意見を比べる。「まとめる」段階では、できるだけみんなが納得できるように実行委員がまとめて上段に上げる。

今回は、「それぞれのお店で音楽を流す」「お店マップを作ってスタンプラリーをする」「お金を作る」「体育館を少し暗くして夜の雰囲気を出す」ことが決まった。



本時に至るまで（課外 準備）

話し合い活動を終え、それぞれの役割が決まったら早速準備に取りかかっていた。活動時間は主に朝の時間や昼休み。家から段ボールをもってきたり教室にある道具を駆使したりしながら、自分のお店を盛り上げるために、友達と力を合わせる姿がたくさん見られた。教師は友達と協力して楽しそうに活動する姿や工夫している姿を価値付けたり、困っている子の相談にのったりして子供たちの活動を支援するようにした。頑張っていることや困ったことなどの思いや気付きを引き出し、その都度ポートフォリオに記入するように声をかけた。



本時に至るまで（第3時 実践）

いざ実践の日。時間・進行係がタイムスケジュールを考えており、自分たちで始めの言葉や注意事項を説明するところから始まった。これまでの議題での課題だった「時間を守る」をクリアするためにいろいろと考えているようである。活動全体を通して、教師は口を挟まず、見守ることに徹した。友達のお店で楽しむ子には、そのお店の友達の頑張りに気付かせたり、自分の店が繁盛したことを喜ぶ子には、これまでの自分の頑張りを価値付けたりすることを意識して声をかけた。

